

未来構想レター (夏季)



〒100-6015 東京都千代田区霞が関三丁目
2番5号霞が関ビル15階 JWD内
電話：03-6625-0723/ FAX:03-6625-0724
E-mail: info@ffv.jp

一般社団法人未来構想会議

-Forum on Future Vision-

2025年8月1日

ぜひホームページ <https://ffv.jp/> を訪問してください。

さまざまなしがらみから解き離れた観点から、独立のシンクタンクとして大胆に社会に提言を行い、SDGsの達成と持続可能な開発の構築に向け活動を行います。未来構想レター（2025年夏季号）をお届けいたします。

ご挨拶

残暑お見舞い申し上げます。連日暑い日が続いていますが、皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。くれぐれもご自愛されご活躍されます様お祈り申し上げます。

さて我が国を取り巻く情勢は一段と厳しさを増し課題が山積しております。先の参議院議員通常選挙では、昨年の衆議院総選挙、この夏の都議選に続き自民党は三連敗となり、自公政権は衆参共に少数与党となり厳しい政権運営を強いられる政治情勢です。場合によっては自民党は下野しなければなりません。このような不安定かつ混迷するなかでトランプ関税が15%で決着したものの、先行き不透明であり、物価高対策や米騒動始め、選挙による消費税廃止を含め税の在り方や健全財政・社会保障政策などは低迷し、国会が大混乱に陥る可能性を含め予断を許さない状況を暫く覚悟しなければなりません。このようなもと、未来構想会議は今後ともしっかりと会員一同、日本の未来に希望のもてる社会を創る為に全力投球して参りますので引き続きのご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

6月2日 未来構想会議 第8回理事会

一般社団法人未来構想会議は6月2日(月)に第8回理事会を開催しました。理事13名、監事1名が出席。出席理事:河村建夫、増子輝彦、伊藤庄平、入澤優公、大川達也、大久保勉、岡島礼奈、蒲生篤実、蒲原基道、斉藤鈴華、樽見英樹、松本千穂、由本文彦。出席監事:生貝健二。報告事項として、①理事会に先立ち社員総会を開催し、理事・監事の任期満了により全員の重任が決議されたこと、②事業経過(令和6年12月から令和7年5月まで)が説明されました。決議事項として、①「令和6年度活動報告・決算報告」、②役員の互選として会長、理事長(代表理事)、副理事長について現行の体制を維持することがそれぞれ決議され、③その他議題では、社員総会の日程などが決議されました。



4月25日 第28回勉強会 「スーダンにおける医療活動と未来に向けて」 講師:川原尚行氏(医師・認定NPO法人ロシナンテス理事長)

川原尚行氏略歴
九州大学医学部卒。1998年外務省医務官としてタンザニア赴任、当時高円宮殿下・妃殿下訪問時お迎え。そのまま外務省に残り2002年スーダンに赴任。2005年NPO法人ロシナンテス設立、理事長として現在に至る。

講演の要約

川原先生はアフリカ・スーダンでの医療支援活動について講演し、その活動内容、直面する課題、および今後の展望について議論しました。外務省医務官としての経験からスーダンでの医療支援の必要性を感じ、2005年にNPO法人ロシナンテスを設立。無医村地区での巡回診療や診療所の建設、井戸の設置など、多岐にわたる活動を展開しています。特に、水不足による下痢患者が多いことから、井戸の設置に力を入れており、これまでに4つの井戸を設置しました。また、子供たちが学校に通えるように学校建設も行い、医



療、水、教育の総合的な開発を目指しています。スーダンでの活動は政治的な不安定さや内戦により困難を極めることもあります。日本の ODA や JICA の支援を受けながら、地域医療の安定化に尽力しています。さらに、ザンビアでも同様の活動を展開し、マザーシェルターの建設やポータブルエコーの導入など、新たな取り組みも行っています。ポータブルエコーは沖縄の企業に依頼して開発されたもので、AI を活用した診断機能も検討されています。また、スーダンの若者を日本に留学させ、日本の文化や考え方を学ばせることで、スーダンと日本の架け橋となる人材育成にも力を入れています。東日本大震災の際には、スーダンの子供たちが支援を行った経緯もあり、自然災害と戦争災害の両方を経験した子供たちを支援しています。講演後には、スーダンの内戦の現状や今後の展望について質疑応答が行われ、国際社会の関与や日本の立ち位置についても議論されました。特に、ロシアや中国の関与についても触れられ、日本がどのように貢献できるかについて意見が交換されました。また、ODA のあり方や国際貢献のあり方についても議論され、直接的な支援の重要性が強調されました。

スーダンにおける医療支援活動の紹介

NPO 法人ロシナンテスの活動内容が、現地での豊富な写真や映像資料を用いて詳細に報告されました。支援実績として無医村地区での巡回診療、診療所の建設、井戸の設置などを挙げ、寄生虫疾患である「リーシュマニア」の患者に対する支援の必要性を強調しました。また、日本が建設した病院（イブンシーナ病院）での外科医としての支援活動や、スーダンでの肝臓移植手術の実現に向けた医療協力についても紹介しました。無医村地区での巡回診療の様子や、診療所建設の過程、村人との協力による井戸の設置、学校建設の重要性を強調し、特に、学校建設によって、子供たちが医療に携わることを目指していることを説明しました。その他、救急車の導入や、地域住民との交流についても紹介されました。

スーダンの政治情勢と国際社会の関与

次にスーダンの政治的な不安定さや内戦の現状について説明しました。アメリカからのテロ支援国家指定や経済制裁の影響について触れ、国際 NGO の活動停止命令や、川原先生自身が現地政府高官と交渉した経緯を紹介しました。JICA の事業として活動することで、スーダン政府の協力を得られたと述べました。内戦からの脱出の際は、国連の車列に加わって避難した経験を語り、日本政府の迅速な対応により、自衛隊機で国外脱出できたことに感謝の意を示しました。また、スーダンの若者（ゼイン氏）の日本留学を支援、日本の文化や考え方を学ばせたことを紹介しました。ゼイン氏からのビデオメッセージを紹介し、ゼイン氏は日本の支援に対する感謝の気持ちを日本語で伝えました。医療支援だけでなく、人材育成の重要性を強調しました。

ザンビアでの医療支援活動と新たな試み

また、ザンビアでの医療支援活動について紹介し、マザーシェルターの建設や、ポータブルエコーの導入など、新たな取り組みについて紹介しました。沖縄の企業に依頼して開発したポータブルエコーについて、その特徴や価格（15 万円から 30 万円と安価）、現地での有効性について説明し、AI を活用した診断機能の開発については日本の企業との連携を希望していると述べました。さらに、母子健康カードのデジタル管理の必要性を強調し、九大医学部と共同開発したポータブルヘルスクリニックのシステムを紹介しました。バングラデシュのシステムを参考に、アフリカでの展開を目指しており、NEC が開発した指紋認証技術については、事業性の問題で開発が中止されたことを残念に思っていると、活動を取りまく現状の説明がなされ、他にも富士フイルムが開発したポータブルレントゲンをザンビア政府に寄贈したことなどが紹介されました。また、スーダンとアメリカの関係や、過去の誤爆事件についても言及がありました。

増子輝彦理事長、堀口富美子・日本防災女子株式会社代表取締役が出席。大久保泰典理事、関信行・株式会社関建設代表取締役が ZOOM で参加。

7月4日 第29回勉強会 「トランプ政権と日米関係」

講師:カミロ・サンドバル氏

(Pacific Square [パシフィック・スクエア] 共同創設者兼マネージング・パートナー、
元アメリカ合衆国連邦政府 最高情報セキュリティ責任者 [CISO])

藤末健三氏

(慶応義塾大学経済学部経済研究所 国際ビジネス創造研究センター特任教授)

カミロ・サンドバル氏略歴

アメリカ合衆国連邦政府 最高情報セキュリティ責任者(CISO)、ホワイトハウス
管理予算局(OMB)人工知能・技術政策上級顧問、ホワイトハウス 管理予算
局(OMB)連邦サプライチェーン調達セキュリティ評議会議長、退役軍人省
(VA)最高情報責任者(CIO)兼ホワイトハウス上級顧問、ホワイトハウス上級
顧問兼財務省 大統領政権移行チーム責任者、2016年 大統領選挙(予備
選・本選)データ戦略および有権者エンゲージメント部門ディレクター等を歴任。



講演の要約

サンドバル氏は7月4日のアメリカ独立記念日に触れ、この日が米国のみならず、日本にとっても重要な象徴となり得ることを示唆しました。会議では、サイバーセキュリティ、医療、エネルギーなど多様な分野における米国市場への日本企業の参入可能性を含む、様々なビジネス機会とパートナーシップが検討されましたが、特に日本がグローバル競争力を維持するための変革とリーダーシップの必要性が強調され、大胆なイノベーションの重要性と内部課題の解決が指摘されました。また、日米間のAIガバナンス協力、貿易関係、日本がイノベーション能力と国際的な存在感を強化する必要性についても活発に議論されました。

日米ビジネスパートナーシップの機会

サイバーセキュリティ、サプライチェーンセキュリティ、半導体分野で活動する企業である Pacific Square を中心に、多様なビジネス機会とパートナーシップについて議論されました。日本企業がアメリカ市場に参加する可能性が強調され、特に医療・ヘルスケア製品分野での機会が注目されました。また、AIとサイバーセキュリティ分野での共同研究プロジェクトや、シェールガス産業における機会についても言及され、参加者は、特に日本企業がアメリカのプロジェクトに貢献できる分野において、これらの事業機会をさらに探求する意向を示しました。

日本のグローバルリーダーシップへの道

サンドバル氏は、日本の変革とリーダーシップの可能性について、アメリカ合衆国の軌跡と比較しながら説明しました。日本の最大の課題は外部ではなく内部にあると強調し、大胆なリーダーシップとイノベーションの必要性を指摘しました。日本がリーダーシップを示すための3つの主要な分野として、①AIと医療イノベーションを通じた人口危機の解決、②次世代原子力と再生可能エネルギーによるエネルギー自立の実現、③グローバルガバナンスにおけるリーダーシップの確立を提案しました。自信と大胆さへの文化的な転換の重要性を強調し、日本がリスクを再生へと転換し、前進を加速することでリーダーシップを取り戻すよう促しました。

日本のグローバル競争力

また、日本のグローバル経済における課題と機会について議論し、安定から変化とイノベーションへの文化転換の必要性を強調しました。金利の引き下げと税制の調整を通じて、より多くの投資家を惹きつけ、企業にとってより有利な環境を創造する重要性が指摘されました。議論は、特にAIエンジニアを含む有能な人材が、より有利な条件を有する他国へ流出する「頭脳流出」問題にも及び、日本がこれらの課題に対処しなければグローバルな競争力を維持できないと結論付けました。

日米 AI ガバナンス協力

日本と米国間のAIガバナンス協力については、日本はルール制定者としての役割を果たすべきだと強調しました。両国の文化的な違い、特にAIの倫理的考慮事項、特に医療分野における違いが強調されました。参加者は、日本の独自の視点がグローバルなAI倫理のモデルとなる可能性を認めつつ、政策立案者や大学がこれらの問題をより深く理解し対応する必要性を指摘しました。

米国の政治情勢と日本

議論はアメリカの政治情勢にも焦点を当て、特にトランプ大統領の政策と今後のリーダーシップ移行について分析しました。参加者は、トランプ氏の政策が医療、減税、経済的インセンティブに与えた影響を分析し、その政策が議論の的となったものの、政府依存の削減と労働の促進を目的としていた点を指摘しました。また、日米関係の緊張についても議論され、石破首相がトランプとのより強い関係を築く機会を逃したことが、貿易交渉の障害となっている点が強調されました。米国指導部の変化の可能性を踏まえた日本の将来戦略への懸念と、日本が軍事同盟国としての役割を再考する必要性にも言及されました。

日本の貿易とイノベーション戦略

さらに、日本が米国との国際貿易とイノベーションにどう取り組むかが議論されました。参加者は、日本のソフトウェア工学の能力に関する課題と、日本への外国からの直接投資の必要性について議論しました。また、海外における JETRO のスタートアップ促進における役割や、イノベーションを支える適切な人材とインフラの重要性についても言及されました。また、経済的視点に加えて日本国内メディアの偏向性や、イスラエルに関連する外交問題について日本の石破首相がコメントしていない点など、多岐にわたる視点からの活発な議論もあり、盛会のうちに終了しました。

増子輝彦理事長、富田茂之副理事長、大久保勉理事、斉藤鈴華理事、堀口富美子・日本防災女子株式会社代表取締役、平竹雅人・三菱商事株式会社デジタルイノベーションセンター長が出席。関信行・株式会社関建設代表取締役が ZOOM で参加。

7月主要活動報告

4～6月分についてはホームページ「活動報告」をご覧ください。

- 1. 7月1日（火）
 - 斉藤大作・独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）再生可能エネルギー事業本部特命審議役来所。
 - 堀口富美子・日本防災女子株式会社代表取締役来所。
 - 小見山幸治・公益財団法人国際人材交流支援機構理事長 兼 株式会社アウトソーシング クエスト代表取締役、芳本二ナ・学校法人 芳本学園日本スポーツビジネス専門学校理事長来所。
- 2. 7月4日（金）
 - 未来構想会議第 29 回勉強会「トランプ政権と日米関係」
講師：カミロ・サンドバル氏（Pacific Square[パシフィック・スクエア]共同創設者兼マネージング・パートナー、元アメリカ合衆国連邦政府 最高情報セキュリティ責任者[CISO]）、藤末健三・慶応義塾大学経済学部経済研究所国際ビジネス創造研究センター 特任教授
増子輝彦理事長、富田茂之副理事長、大久保勉理事、斉藤鈴華理事、堀口富美子・日本防災女子株式会社代表取締役、平竹雅人・三菱商事株式会社デジタルイノベーションセンター長が出席。関信行・株式会社関建設代表取締役が ZOOM で参加。
- 3. 7月6日（日）
 - 角田守良・株式会社福島民報社編集局長、五十嵐稔・同社東京支社長と増子輝彦理事長が懇談。
 - 國分義之・帝京平成大学健康医療スポーツ学部教授来所。
- 4. 7月9日（水）
 - 伊澤史朗双葉町長と増子輝彦理事長が面談。
 - 法人会員斎藤智巳・株式会社三プラント代表取締役と増子輝彦理事長が面談。
- 5. 7月11日（金）
 - 萩原一郎・明治大学先端数理科学インスティテュート（MIMS）先端科学 ELSI 研究所 研究特別教授、杉山有希子・同研究・知財戦略機構客員研究員、安達悠子・同客員研究員、堀口富美子・日本防災女子株式会社代表取締役来所。
- 6. 7月17日（木）
 - 藤本武士・経済産業省福島復興推進グループ総括官来所。
 - 大久保泰典理事と増子輝彦理事長が面談。
- 7. 7月22日（火）
 - 渡邊浩司・一般財団法人民間都市開発推進機構（MINTO）常務理事と増子輝彦理事長が懇談。

未来構想会議ホットライン
（一社）未来構想会議に対するご意見・ご要望をお寄せください
〒100-6015 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号霞が関ビル 15 階 JWD 内
電話：03 - 6625 - 0723/ FAX:03 - 6625 - 0724
E-mail: info@ffvj.jp <https://ffvj.jp/>